
ロシア語教育におけるレアリアの研究

堤 正典／小林 潔

言語教育においてレアリア（言語使用についての背景知識）は重要である。ロシア語教育においても同様である。我々はこれまで、学習語彙の検討などの面からレアリアについても研究を進めて行ってきたが、ここで改めてレアリアを問題としたい。

日本人のロシア語学習者にとって、ロシアは身近な生活習慣においても、微妙に（あるいは相当に）日本とは異なるところもある。そのような事例を整理しながら、ロシア語の教育内容を見直す。

本研究では、まずロシア語初修教育における内容を検討するが、さらに上級の学習内容についてもできる限り検討していきたい。国内外の教科書におけるレアリアから見た内容の検討を行い、日本人の学習者が必要となるものの検討を行う。

語彙や表現がまずはレアリアにかかわると考えられる。しかし、それらの語彙や表現にかかわる文法も無視することはできない。個々の側面を検討するとともに、マクロな視野で学習内容全体を検討する。

よくあるレアリアの導入として、扱ったテキストの内容に関するレアリアを同時に紹介する方法がある。我々が本学のロシア語教育で現在使用している教科書でもそのようなことが行われることが示唆される。そのような方法でのより有効なストラテジー、それ以外の方法があるならばその有効性についても検討していく。

ロシア語のレアリアに関する直近の話題として、パンデミックと戦争がある。このような具体的な例についても考察していこうと考える。